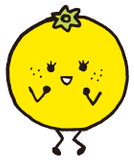
2025
04.26

宿毛市事前復興まちづくり計画
第2回　鵜来島・沖の島地域ワークショップだより



3回目以降からのご参加も大歓迎！
ご家族やご友人をお誘い合わせの上、
奮ってご参加ください！！

第2回　鵜来島・沖の島地域ワークショップを開催しました

令和7(2025)年4月26日(土)に第2回　鵜来島・沖の島地域ワークショップを開催しました。当日は、鵜来島10名、沖の島20名(母島：6名、弘瀬：14名)の方にご参加いただき、地域の事前復興まちづくりについて様々なご意見をいただきました。

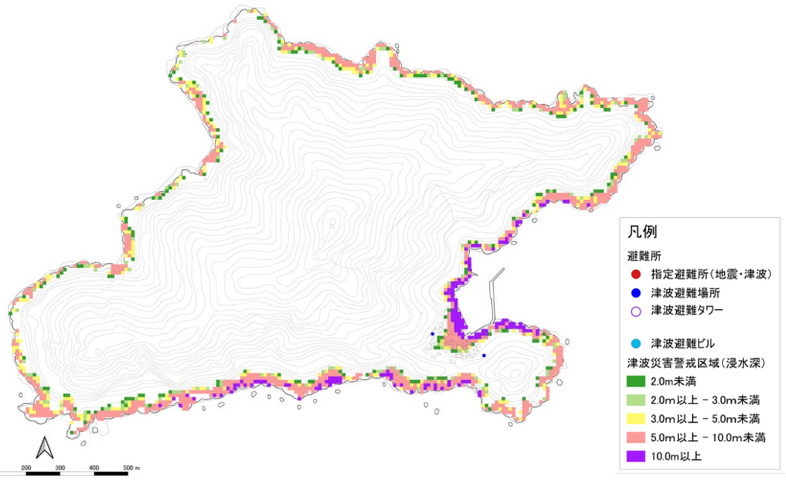
ワークショップでは、「ご自宅の危険性を確認しよう」、「避難生活から復興までの住まいの場を想像してみよう」をテーマについて意見を出し合いました。

鵜来島

沖の島(母島)

沖の島(弘瀬)

鵜来島



鵜来島

【応急期】
- 全島避難の検討が必要である
- 応急期に受け入れを実施してくれる地域との交流をする

【避難期】
- 港や船が被災し、漁業や渡船が再開できるのか心配
- 年齢、復興資金によっては、島外を選択せざるを得ない

うみがめに会えました！

ワークショップ　活発な意見交換を実施しました。

鵜来島

	島の復興に欠かせないもの	島の宝
命を守る	・避難場所での共同の備蓄を考える →持病の薬なども備蓄したいが、入手や保管の問題	
生活を再建する	・定期船 … 船の行き来が不可欠 ・片島から船が出るのか心配 ・現在は、週に1回程度買い物にまとめて行く ・集落活動センターにて受付・対応 →助け合いができるコミュニティが不可欠	
なりわいを再生する	・渡船の再開 ・漁業が続けられるように ・ただし、漁業では、生活するのは難しい面もある	
歴史・文化を継承する	・戦争遺跡までの道が危ないところあり	
その他	・人の支え合い ・通電火災のおそれ →感震ブレーカー等の設置支援	

沖の島　母島

【応急期】
- 島内のインフラ被害が生じ、全島避難の検討も必要
- 全島避難の場合、候補地を事前に把握しておきたい

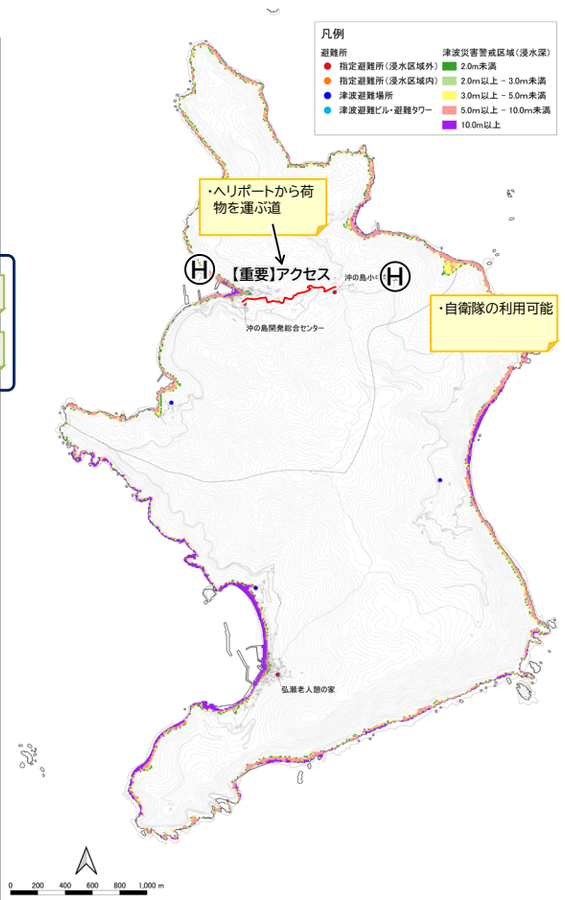
【避難期】
- インフラの復旧に時間を要す
- 沖の島内での集約も検討が必要

ワークショップ　活発な意見交換を実施しました。

沖の島 母島

母島　班

	島の復興に欠かせないもの			島の宝
命を守る	・電気(ケーブル)	・医療体制	・ヘリポート	
生活を再建する	・定期船(2-3回/日) ・港 ・道路	住まい ・復興場所 平らなところない 学校しかない ・集約することも見据える ・島民17戸(母島)		道 ・学校までの道路を整備 ・上で不便だけど交通を整備
なりわいを再生する	・郵便局(荷物、銀行)	・旅館	・市役所	
歴史・文化を継承する	・神社			
その他				・自然



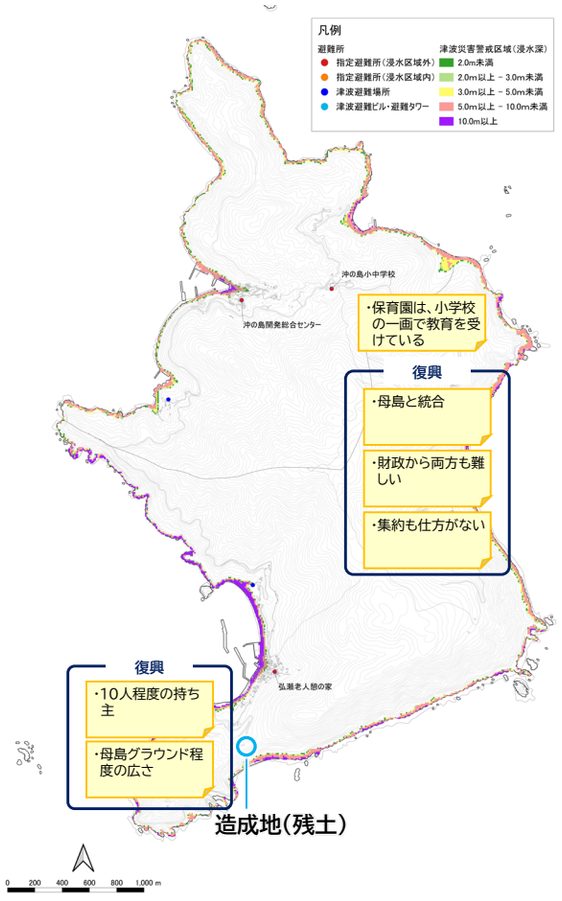
沖の島　弘瀬

【応急期】
- 全島避難の場合、地域コミュニティを維持し、応急仮設住宅へ入居したい
- 戦時中は、橋上に疎開した歴史もあり、イメージできる

【避難期】
- 学校の復興は難しいと思われる(発災時、子どもがいないことも考えられる)
- 沖の島内での集約も検討が必要

ワークショップ　活発な意見交換を実施しました。

沖の島 弘瀬

弘瀬　班

	島の復興に欠かせないもの			島の宝
命を守る	・インフラ ・食べ物 ・病院	ライフライン ・電気 ・水(ポンプも電気で引いている) ・ガス		
生活を再建する	・住まい	フェリー(本土への移動) ・フェリー(宿毛市内へ通院等のため) ・福祉施設 ・美容院 ・買い物		
なりわいを再生する	・便利屋さん	・漁業		
歴史・文化を継承する	祭り、行事 ・春・秋みこし ・3/3旧暦 裸足参り ・傘鉾(2年に1回) ・山ムシ? ・追ってから逃げる	三浦一族 ・三浦一族(鎌倉時代) ・三浦義明(みうらよしあき)		・島
その他		・カヌー ・登山 ・グルメ		・子どもたち ・ふるさと ・ご近所さん